

京都大学文学部哲学科卒業論文題目

—昭和四十四年度—

哲学専攻

- 向井 久 カント・ヘーゲル・マルクスに於ける自由の概念
- 龜山 純生 フォイエールバツハの人間学の宗教について
- 杉山聖一郎 カント哲学に於ける超越論的有論の可能性と有限的思惟
- 蓮野 博 空間に就いて —幾何学・空間・自然—
- 中村 祐三 カント「純粹理性批判」における知的現存在の分析と自然
- 竹下 雅昭 ヘーゲルの弁証法
- 野尻 和夫 カントにおける認識の問題について
- 野村 隆章 「精神現象学」ノート
- 渡辺 恒夫 「外界存在の知識の起源」の問題への発達心理学の適用
- 矢野 秀久 哲学の存在意義
- 吉見 実 実存 (Existenz) についで……
——主として Heidegger, Sartre, Kierkegaard, Nietzsche を中心にした——

阿久根哲郎 サルトルにおける他者の構造

西洋哲学史専攻

- 池田 正平 ヘーゲルにおける市民社会の認識
- 多田 省吾 Platon, Theaetetus における「プロタゴラス説」批判について
- 谷口 正一 ヘーゲル論理学に於ける現実性論
- 門田 克弘 感性の果す役割について —純粹理性批判の場合—
- 溝口 宏平 ハイデッガーに於ける自己 (Selbst)
- 蒔苗 暢夫 世界の永遠性について —『神学大全』第一部四十六問題による—
- 公手 孝尚 Platon, Parmenides 研究
- 米田美智子 ヘーゲル弁証法に関するハイデッガーの解釈について
- 土橋 恭秀 Prabdhaendrodaya の研究
- 中国哲学史専攻
- 村上 勉 范仲淹の思想 —思想とその社会的条件—
- 心理学専攻
- 岩田 雅之 identity に関する一考察

須賀十糸子 逸脱

関 哲 ことはとおこなふ

田尾 雅夫 正当なリーダー (legitimated leader) における

役割分化 (role differentiation) についての実証的研究

高橋 博雅 Commitment と Dissurance

堤 雅雄 恒常性と錯視に関する一考察

藤原 寛子 Piaget の知能の発生論について

三浦 俊彦 リーダーシップについての考察

梶山 方孝 対人認知における印象形成の問題

長沢 秀雄 幼児の教概念の発達について

庄司 禎夫 Psychological Refractory Period について

倫理学専攻

喜多 律夫 アガペー理解の一つの試み

北尾 美成 日本に於ける自然観の展開と特徴

長岡 成夫 カントにおける内的合目的性

柳原 正志 G. E. Moore の「善」の概念とその存在について

美学美術史専攻

小田 浩昭 ルカーチ美学論 日常生活における反映—

稲塚 久馬 W. A. Mozart, その天才

下山 肇 ドイツ芸術精神の構造と子のホルバインの独自性

ハン・ヘン・シャントラー 室町時代の美術について

米沢 有恒 ハイデッガーに於ける芸術の問題

社会学専攻

岩谷 淳一 新興宗教の社会的性格

木田 融男 マルクス主義における「社会心理」

木村 洋二 非同調の社会的機能

伍賀 一道 都市における下層階層についての一考察

篠崎 友実 現代社会に於る流行の成立過程について

中西 真治 マス・コミュニケーションと大衆

松枝憲一郎 都市化の社会学的考察

水野 和伸 Roger Caillois の Les jeux et les hommes による遊戯論の展開とその社会的機能

吉池 嘉彦 ライト・ミルズの指向したもの

浦野 巖 エリヒ・フロム の思想

奥田 宏生 新中間層

高沢 淳夫 『方法の規準』に現われたる E. Durkheim の

『思考の枠組』

中川 隆生 公害問題の困難性に関する一考察 — 千葉県原市

久川 要 の場合をふまえて—

都市に於ける政党組織の役割 — 大阪市北区に於

ける自民党会の場合—

辺見肇四郎 大衆社会論に関する一考察

森 平人 自殺論

大島 安雄 日本における個人主義の発展と自由民権運動

坂根 久嗣 幕末の社会体制について

宗教学専攻

高田 信良 ヘーゲル「精神現象学」—意識の経験について—

小堀 晃 十九世紀ドイツにおける無神論の展開 —フオイ

エルバツハからマルクスへ—

米沢 穂積 宗教における自我の構造 —ヘーゲル宗教哲学の

一考察—

仏教学専攻

中谷 英明 Dharmasamuccaya (édité par Lin Li-kouang)

の第六章 Apramādvarga の研究

早島 理 Tatāgatagarbha —Ratnagotravibhāga の第一

一章に於けるその一元的性格—

京都大学大学院文学研究科修士課程修了

論文題目(哲学科関係)

—昭和四十四年度—

哲学専攻

丸山 高司 「歴史主義について」

山田 弘明 デカルトにおける神と人間

向井 俊彦 ヘーゲル疎外論について

川上 忠行 ヤスパースの実存と倫理
林 隆 Descartes の Meditations について

西洋哲学史専攻

田中 進 ヒュームの「人性論」第一巻に於ける認識論上の

基本的諸問題について

山本 耕平 創造における神の知と意志について —トマス・

アキナス神学大全を中心として—

和田トク子 アウグスチヌスの愛の思想についての一考察

道前 治良 カントに於ける自由の問題

宗教学専攻

海老澤善一 主体と客体の同一性 —ヘーゲル哲学の生成過

程—

細谷 昌志 カント根源悪について

山下 秀智 キェルケゴールの実存弁証法に関する一考察

仏教学専攻

宮本 猷璽 入楞伽経 Lankavatarastra の研究 —特に自由

聖智の教説を中心として—

頼富 本宏 後期インド密教に関する一考察

基督教学専攻

秦 剛平 フラビウス・ヨセフスの熱心党観 —特に彼の歴

史観を中心にして—

伊藤香美子 キルケゴールにおける「同時性」の概念について
宮庄 哲夫 ドイツ教会闘争と Lutherium

心理学専攻

金児 眺嗣 集団における危機的事態に関する実験的研究

鯨岡 峻 Seins に関する一考察

口町 康夫 二つの適切な弁別の手掛りがある場合の日本猿に

おける弁別学習と船化

塩見 武雄 恐れと行動

中嶋 順子 集団帰属意識の構造

松島 隆二 ニホンザルの弁別学習における過剰訓練効果につ

いて

山田 和子 依存性と自立性

社会学専攻

田口 宏昭 アノミー論への一視角

八木 秀夫 労務管理の合理化

大倉 秀介 リースマンの大衆社会論

美学美術史専攻

岩城 見一 Hegel 美学〔第二部：芸術美の特殊形成への理想

の展開〕

宮島 新一 似絵と大和絵

京都大学大学院文学研究科博士課程単位
修得者研究報告要旨題目（哲学科関係）

—昭和四十四年度—

哲学専攻

土屋 盛茂 カントの因果律

佐藤 公一 合理主義に於ける自由と責任の問題 —デカルト

の場合—

安井 邦夫 Hegel と無限小解析

石井 誠士 ニヒリズムの問題

西洋哲学史専攻

池田 康男 プラトンに於けるメテクシスとシユンプロケーに

ついて —「パルメニデス篇」に於けるアポリア

との関連に於て—

村上 武子 聖トマス・アクイナスによる希望の徳について

筒井 文隆 N. ハルトマンの「認識の形而上学」 —認識論・

存在論の依拠する根柢を探索する試み—

宗教学専攻

西村 恵信 シェリングの認識論

心理学専攻

大平 典明 〈知覚研究のための視点と方向〉

金光 義弘 覚醒 (Arousal) と学習及び記憶に関する研究

島 久洋 リーダーシップにおける認知と行動

高木 修 態度構造論的接近法による社会的態度の研究

鳥山 平三 個人の価値観の形成と変容の過程について

森下 正康 自己概念の形成・発達

社会学専攻

大村 英昭 社会的移動の問題性 —最近の過疎現象を手がかりに—

美学美術史専攻

佐々木丞平 日本文人画における山水図の問題 —池大雅を中

心に—

元代初期における江南支配の一視点